

平成 29 年度第 1 回大竹市事業評価監視委員会 会議記録  
※会議録は要点整理によって作成しています。

- ・日 時 平成 29 年 11 月 8 日(水) 14:00～15:30
- ・場 所 大竹市役所 3 階大会議室
- ・出席委員 菅原委員, 西委員, 田渕委員, 森谷委員, 天満委員, 藤野委員 (計 6 人)
- ・出席者 太田副市長, 政岡総務部長, 坪浦建設部長, 中司都市計画課長, 実本都市計画課計画整備係長, 岬都市計画課計画整備係員, 中川都市計画課計画整備係員, 鈴木玉野総合コンサルタント株式会社建設技術部道路交通課長, 三原企画財政課長, 山田企画財政課企画係長, 本山企画財政課企画係員 (計 11 人)

### 1. 大竹市長あいさつ(抜粋)

再評価の対象は、「大竹駅東口広場・市道駅小島新開線外 2 路線の整備事業」です。大竹駅東西間の交通ネットワーク形成と駅周辺の活性化事業には、平成 6 年度から取り組んでいますが、途中、事業が進まない時期もありました。また、前回の再評価では、「橋上駅化の検討や周辺土地の利活用の促進など、更なる利便性の向上や、活性化への努力を」という意見をいただいています。

この意見を踏まえて検討を重ね、この事業は「大竹駅周辺整備事業」として、駅を橋上化し、自由通路とつなげる形に変わっています。平成 30 年代前半には完成したいとの気持ちを持ち、現在も鉄道事業者との協議を重ねており、来年度には基本協定を締結し、もう一步、事業を大きく進めたいと考えております。

駅は、まちの玄関口で、そのあり様は、まちの印象に大きく関わります。

よそのまちの方が、この大竹に降り立ったとき、第一歩を踏み出すところでございます。まず大竹の駅や、そこからの眺めを見て、どんなまちなのか、それぞれにイメージを持たれると思います。その意味でも、「大竹駅周辺整備事業」は、本市の魅力あるまちづくりにとって、大変重要な事業であり、しっかりと前に進めていく必要があると考えています。

今回は、今後の進め方を検討するために、まず市で評価し、今後もよいまちの実現に向けて進めたい旨の方向性を、対応方針(案)という形で、委員の皆様にご提示いたします。

事業の継続について、委員の皆様方の、忌憚のないご意見をいただきますとともに、審議のほど、よろしく願いいたします

### 2. 自己紹介

### 3. 会長及び副会長の選出

委員改選後、初の委員会のため、大竹市附属機関設置に関する条例第 7 条第 2 項の規定に基づき会長及び副会長を選出し、会長に菅原委員が、副会長に西委員が就任。

#### 4. 事業概要等の説明及び質疑

##### 【説明者】

- 中司 都市計画課長
- 実本 都市計画課計画整備係長
- 岬 都市計画課計画整備係員

##### 【質疑(要旨)】

※ 大竹駅の西口は新町・油見地区側（山側）、東口は栄町地区側（海側）です。

- 委員：用地取得率は80%とあるが、残りの20%はどこですか。
- 大竹市：すでに取得しているのは、主に大竹駅の東口側の道路や広場等です。残り20%は、西口広場の再整備のために必要な用地で、JR西日本とJR貨物の所有地です。
- 委員：費用対効果の数值は、高いほうが良いと思うが、平成20年度から事業費が大幅に増加したのに比べ費用対効果の数值が大きく伸びていません。駅舎の橋上化等により、利便性は格段に向上すると思います。整備に伴って事業費が向上するのは仕方ありませんが、費用対効果があまり増えないのはなぜですか。
- 大竹市：平成20年度は、自由通路と大竹駅東口の整備を評価しています。今回は、新たに西口広場の整備と駅舎の橋上化を加えた事業となったことから、便益が向上していますが、伴って事業費も増加しており、思ったほど費用対効果の数值が伸びていません。
- 委員：この事業には、駅の橋上化と駅前広場整備の2つがありますが、全ての完成が平成35年度なのか、それとも早く完成した施設から利用できるようになるのですか。
- 大竹市：事業の完成時期は、関係する鉄道事業者との最終的な協議が影響します。市としては、平成34年度中に駅舎を橋上化し、その後に駅前広場を整備するよう考えています。できたところから利用を開始し、平成35年度には全ての整備が完了するよう目指しています。
- 委員：費用対効果について、平成6年度から平成20年度までと平成29年度で事業内容が大きく変わったために、総事業費や便益が大きく変わったことは理解しました。しかし平成6年度からの平成20年度までの14年間で、計画が変わっていないにもかかわらず、事業費は大幅に増えている一方で、便益が大幅に下がっており、その結果として費用対効果が6.01から1.70まで下がっている。この点を考えると、平成29年度の費用対効果2.22は、事業完了のころには大幅に下がるのではないかと懸念されます。平成6年度からの費用対効果の減少について、どのように考えていますか。
- 大竹市：平成20年度に自由通路に屋根を取り付ける費用を追加したこと、また資材費の高騰の影響を費用に反映したため、事業費が大幅に増えています。
- 会長：便益は変わっていないが、整備の内容を変更したことで費用が増加したため、費用対効果が下がったということですか。
- 大竹市：資材の高騰や整備の変更によるコスト上昇に比べて便益があまり上がっていないことがあります。JRの乗降者数が平成6年度5,800人であったのが平成20年度2,737人と大きく減少したことで、便益を受ける人が減少したことも要因の一つと考えています。（現在の乗降者数は下げ止まっている）

## 5. 対応方針（案）に対する審議

### 【説明者】

- 中司 都市計画課長

### 【意見・質疑】

- 委員：西口広場にフリースペースとして交流広場が考えられていますが、この場所に遊びや屋台等ができるような、市民が集える環境整備をしてほしいと思います。最近の JR の駅はユニークさがないものが増えている感じがします。形だけ新しくなった駅とするのではなく、市民が我がまちの駅と思えるような中身のある駅にすることが大事です。これまで JR で海側と山側に分断されていた大竹のまちを、人口が減っている中で、駅を中心としたコンパクトなまちづくりを進めほしいと思います。
- 委員：対応方針（案）については賛成ですが、維持管理費の JR との分担はどのように考えていますか。
- 大竹市：駅舎は、JR が管理し、自由通路は市が管理する道路になります。大竹駅東口広場は市が管理しますが、西口広場は、JR との協定広場となるので、土地の境界部分にもよりますが、一部は JR の管理になると考えています。
- 委員：対応方針（案）に賛成です。バリアフリー化を要望する方が非常に多いと聞きます。駅舎の橋上化や自由通路を、スピード感を持って進めてください。
- 委員：対応方針（案）には賛成です。人口は横ばいですが、利用者数が減っているという説明がありました。この機会に、JR に任せるのではなく、大竹市がまちづくりの一機能として駅を魅力的なものとし、人口が減っているから利用者数が減っているとあきらめるのではなく、利用者数が増加するように取り組んでください。
- 委員：現状は未着工ですが、前回の事業評価監視委員会からの意見にも対応した方針となっており賛成です。ぜひ早く事業を実施してもらいたいです。
- 委員：対応方針（案）に賛成です。駅を中心とした、しっかりとしたまちづくりを進めてください。
- 会長：各委員とも対応方針（案）は、妥当との意見でした。委員からは、駅周辺の活性化のための施策を検討し、駅を中心としたまちづくりを進めてもらいたいとの意見が出ています。これらの意見は付帯意見としてではなく、委員会でこのような意見が出たことを記録として表す程度で良いと思いますが、皆さん、よろしいですか。  
(各委員 異議なし)
- 会長：皆ご異議がないようですので、市長には、この対応方針（案）で事業を継続し、出された意見に配慮して実現に努めてもらいたいと思います。